

2001年1月

海外誌掲載論文の和文概要とそれに対するコメント

胎児 echogenic intracardiac foci の母体人種別検出頻度 The Frequency of the Detection of Fetal Echogenic Intracardiac Foci with Respect to Maternal Race

Shipp TD, Bromley B, Lieberman E, Benacerraf BR.
Ultrasound Obstet Gynecol 15: 460—462, 2000

目的：echogenic intracardiac foci (EIF) の検出頻度到人種による違いがあるかどうかを検討した。

対象および方法：妊娠15～20週で受診した489例すべての胎児について EIF の有無を検索し、EIF を認めた胎児の周産期予後を Asian, black, white, unknown に分類し、prospective に検討した。

結果：EIF の頻度は Asian 30.4% (14/46), black 5.9% (2/34), white 10.5% (42/400), unknown 11.1% (1/9) であった。Asian の white に対する odds ratio は3.8であった。EIF の認められた胎児で染色体異常であったのは white の Turner mosaic 1 例のみで、Asian はすべて正常であった。形態異常は、Asian の2例 (toxoplasmosis, non-immune hydrops) と white の3例 (achondroplasia, anencephaly, unilateral renal agenesis) であった。

結論：Asian では EIF が他の人種より高率に認められる。Asian には正常所見として EIF が高頻度で見られるため、そのカウンセリングには慎重な態度が必要である。



コメント：本誌は the International Society of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology の Official Journal である。日常の産婦人科領域超音波検査に関する論文が多く掲載されており、我々臨床医には身近で役立つ雑誌であるので紹介させて頂いた。

EIF に限らず、choroid plexus cysts, renal pelvic dilatation, echogenic bowel, mild cerebral ventriculomegaly, nuchal translucency は高頻度に出され、その後の対応に苦慮することが多くなった。その理由は、これらの marker が genetic sonogram として second trimester の超音波検査で注目されるようになったこと、そして超音波断層装置の解像度そのものが向上し検出されやすくなったことなどにあると思われる。これらの超音波所見は染色体異常のリスクが高いとされているため、必要以上に severe な説明により妊婦に不必要な混乱と不安を与えてしまうことがある。しかし、日本人にも高率に出され、多くの normal variant が含まれている可能性があることを認識し、これを妊婦に説明したうえで慎重に羊水染色体検査などの精査をするか否かを決定する必要がある。

自治医科大学 泉 章夫